

はじめに

1 本教材の目的

現在、1万5000人を超える方が予備試験を受験されていますが、その中には予備校に通わず大学や独学で勉強されている方も多いと思います。しかしながら、実際の予備試験の合格者は予備校を使っている方が多いのが現状だと思います。

このような現状に至る理由は何であろうかと考えたところ、次のことが考えられました。すなわち、予備試験の論文式試験の対策としては、インプットのみでなく予備試験の過去問演習も重要であるが、大学や独学で勉強されている方にとっては、予備試験の論文の過去問を解いて練習しようにも適切な教材がないのではないかとということです。

予備試験は、司法試験と異なり、出題趣旨が簡素なもので、採点実感がなく、司法試験委員が求めていることが分からない。また、答案例は入手することができても、それに対する解説もなければ思考過程もわからない。つまり、大学や独学で勉強されている方が、予備試験の過去問演習をしようにも限界があることは自明なわけです。

そこで、本教材では、会社法のみですが、予備試験の過去問の思考過程・解説・答案例を全て示した講義を提供することにより、主に大学や独学で勉強されている方が、予備校に通われている方と対等の演習ができるような状況にすることを目的としております（もちろん予備校に通われている方であっても、より力がつくような教材になっていると思っています）。

2 本教材の構成

予備試験の過去問は平成23年から令和元年まで9年分溜まっていますが、各年度ごとに分割して解説講義を作成しています。そして、各年度の解説講義の内容としては、大まかに①問題編、②解説編、③答案編に分かれています。各編の内容としては以下の通りになっています。

- ①問題編：問題文を読みつつ、私の思考過程を話していきます。
- ②解説編：問題となる論点について、論点ごとに解説していきます。
- ③答案編：作成した答案を確認し、実際の試験でどこまでの程度書けばいいのかを説明します。

3 本教材の使い方

(1) 受講順序

本教材は、令和元年度から平成23年度まで最新の過去問から受講していただくことを想定にしています。司法試験でも予備試験でも問題の傾向は徐々に変化しているので、最新の過去問から解いて、現在の試験の傾向を把握することが重要だと思います。もっとも、古いものから解くこと自体を否定するものではないですので、何度か出題されている論点についても各年度の講義ごとに解説しています。

(2) 答案作成

答案作成については、個々の受講生に委ねます。答案を書くことは必須だとは考えていません。時間がない人は、答案構成だけして講義を聞いていただいても問題ありません（私も司法試験過去問は答案構成のみでした）。

望月 楓太郎